

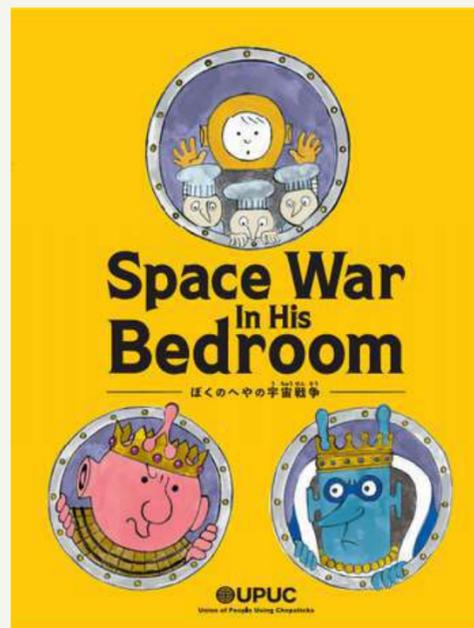
架 け 箸 プロ ジェ ク ト

アフリカの小学校を箸工場へ



UPUCの理念とこれまでの活動

UPUCの理念は『箸文化を通して世界平和』



箸と平和をテーマの絵本を通して全世界に『箸文化を通して世界平和』を発信。
世界中の老若男女誰でもが読めるように、絵本のダイアログはありません。



箸文化を世界へ広めるため、箸を模した日本刀を持つ『箸侍』が浅草の仲見世通りを歩き外国人の方々と交流。インタビューやクイズに答えてくれた方にUPUCのオリジナル箸をプレゼントしました。



ウガンダの小学校で子どもたちに箸の使い方を伝授。日本の駄菓子とインスタント焼きそばもプレゼント。絵本の読み聞かせも行いました。



ウガンダの地方の村に訪れ、子どもたちと日本の「だるまさんがころんだ」や「おにごっこ」「騎馬戦」で一緒に遊びました。箸だけでなく、小さなところから日本文化を伝えていく活動もしています。

Let's say no to child labour



Parents keep all children in school.

Child-to-child

ILO
1920-2019

架け箸プロジェクトの概要

BRIEF INTRODUCTION



架け箸プロジェクトは、小学校を箸工場として子どもたちが作った箸を世界中の人たちに購入してもらい、その売り上げで小学校をよりよいものにしていくというプロジェクトです。

アフリカでは清潔な水を手に入れるために、学校に行かず、長い時間をかけて水汲みをしなければならない子どもたちも多く存在します。また、学校に行けたとしても整備が整っておらず、質の高い環境で教育を受けることができないという問題もあります。

架け箸プロジェクトの目的は、子どもたちが自分たちで作った箸の売り上げで学校の環境を整えていき、清潔な水を学校で手に入れる仕組みを作ることです。

プロジェクトの流れ

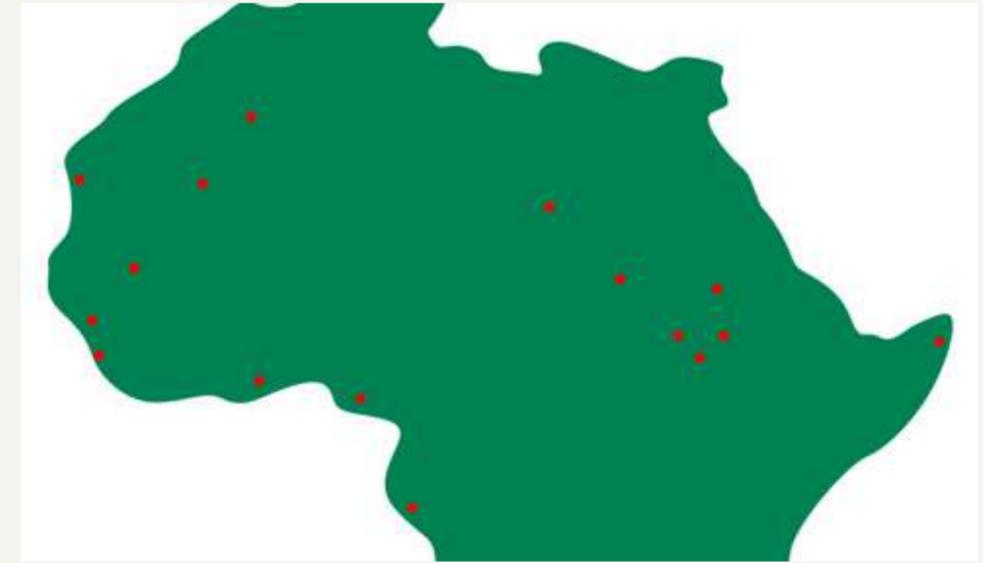
① アフリカの学校の子どもたちに箸の作り方を教える。



② 小学校が箸を作る工場になる。



③ 箸を作る小学校を広げていき、小学校単
で箸工場に。



④ 世界中の人たちが子供たちが作った箸をインターネットで購入できるようにする。



⑤ 世界中の人たちが子供たちが作った箸を購入。



⑥ 箸を売ったお金で、子どもたちが自ら、自分の学校をより良いものにしていく



日本とアフリカの架け橋に



アフリカの子どもたちは、このプロジェクトを通して箸の使い方を学びます。

箸を使う人口は世界に約18億人いると言われています。
この箸圏内にいる人々は、単に箸を使うということだけでなく、食文化や思想的な観点からも様々な共通点があります。

そして、箸の使い方を知ったアフリカの子どもたちはやがて、日本を始めとするアジア諸国に興味を持ち始め、およそ地球の半分ほど離れた私達箸圏内の人々と交流を持ち始めます。

箸をアフリカの子どもたちに伝えるということは、日本をアフリカに繋ぐだけでなく、もはやアジアとアフリカを繋ぐことを意味しているのです。